

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和2年2月3日（月） 11時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・みえ科学探究フォーラム2019について

質疑事項

- ・発表項目について
- ・新型コロナウイルスへの対応について
- ・懲戒処分に至らない体罰等の公表基準について

発表項目

私の方からは、みえ科学探究フォーラム2019について発表させていただきます。

2月15日（土）に、三重県総合文化センターとMieMuにおいて開催いたします。このフォーラムは、小学生から高校生までの科学好きの子どもたちの輪を広げ、科学に対する興味・関心を高める場として、自由研究や課題研究等に係る研究成果を発表します。また、日本を代表する科学者の講演会や、高校生が企画する小学生向けの科学実験講座を行います。平成28年度から開催し、今年で4回目の開催となります。

各行事の内容については、「2 内容」をご覧ください。

1つ目は、中学生・高校生による研究成果発表会です。高等学校14校、中学校2校の合計16校の生徒が発表いたします。中の例ですけど、女子生徒だけで取り組んだ取組、例えば伊勢高校の「精神的ストレスをハーブで改善！」とか、神戸高校の「美白の秘密」など、数多く発表されると聞いています。この発表会における女子生徒の割合が、全体の43%となるなど、女子生徒の科学に対する関心・興味も高まってきております。優れた発表に対しては教育長賞と最優秀賞を出します。そして、今年、新たな取組として、発表に対して質疑応答の中で素晴らしい質問や意見を出した発表者以外の生徒に対して、「Good Performance 賞」を授与します。昨年度までは高校生のみを審査の対象としてきましたが、中学校から「高校生のよう発表したい」との希望がありましたので、今年度からは中学生も審査の対象といたします。これも新しい取組です。

2つ目は、講演会です。これは、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻の星野真弘（ほしの まさひろ）教授をお招きして、「宇宙、惑星、そして生命」というテーマで御講演いただくものです。これは、平成30年11月に三重県と東京大学が、連携協定を締結しておりますので、その一環として実施いたします。星野先生は、三重県桑名市の御出身で、アメリカのNASAや宇宙科学研究所を経て、現在は東京大学で宇宙や惑星でのプラズマ物理の研究に取り組んでおられます。講演会では、みんなで楽しめる宇宙や惑星の話題を中心に、これまでの研究生活でのこぼれ話などについても紹介いただく予定としています。

3つ目は、小学生向け科学体験講座です。県内7校の高校生による小学生向け科学体験講座でございます。高校生自らが、実験をとおして小学生に科学のおもしろさや不思議さを伝えるものです。

各行事は、いずれも事前申し込みなしに、どなたでも見学していただくことができます。ただし、小学生向けの科学体験講座については、毎年大好評のため、当日の13時15分から参加受付の整理券を配付させていただきます。当日は、ぜひたくさんの方にお越しいただき、科学の楽しさを感じていただきたいと思います。また、報道の皆さまにも、生徒の姿を取材いただければと思います。

私の発表は以上です。

発表項目に関する質疑

〇みえ科学探究フォーラム2019について（発表）

（質）中高生による研究成果発表ですけれども、女子生徒の割合が43%になったというお話もありましたが、これまでの割合の変遷みたいなものは把握されていますか。

（答）今年度で4回目になります。平成28年度、29年度は、申し訳ないですが、この統計をきちんととっていないくて、平成30年度が48%、今年が43%ということで、ちょっと率は下がっているんですけれども、「リケジョ」が少ない中、4割以上というのはなかなかいい数字だなと私は思っています。

（質）平成28年度、29年度はとっていないけれども、もっと少なかったという見立てということなんですかね。

（答）数字はないんですよ。

（答 高校教育課）実感的には、だいたい4割ぐらいです。

（質）新たな取組として、「Good Performance 賞」というのがありましたけれども、素晴らしい質問や意見とありますが、もう少し具体的にどういうイメージがありますか。

（答 高校教育課）発表した後に会場からいろいろな質問や意見をもらいながら発表を深めていくという過程で、その質問等をよりレベルの高いものにするために、質問者も評価するということを考えております。研究の核心を突くような鋭い質問や、何かさらに発表を深めるような質問について評価したいと考えています。

（質）質問が素晴らしいかどうかというのは、誰がどういうふうに評価するのですか。

（答 高校教育課）各学校の教員に評価の担当をお願いします。

（質）どういう観点で。

（答 高校教育課）観点はですね、内容を深めていくような質問であったり、意見によって議論がより活発になったりとか、そういったところを見たいと考えています。

（質）質問というのは、そもそも疑問に思ったことを、率直に尋ねるのが質問なんだと思いますけれども、それを評価するというのは、是非はともかく、難しさもあると思いますけれども、何か質問を評価することで、生徒に何かメッセージを与えたいわけですか。

（答）みえ科学探究フォーラムというお祭り、探究ということを目的にこのフォーラムを実施しています。探究というのは、発表する生徒だけの探究力ということではなくて、会場の生徒も一緒になった形で、さらに深めると。自分でその発表を聞いて、こういう課題

があるんじゃないかとか、そういうことを一緒に考えてほしいというそのインセンティブも願う気持ちでこの「Good Performance 賞」を設けた、それが目的です。

その他の項目に関する質疑

○新型コロナウイルスへの対応について

(質) 31日の本部員会議で高校入試前期選抜の追々検査を検討されているというお話がありましたけれども、現在の検討状況というのを教えていただきたいです。

(答) 31日と状況は変わっておりません。追々検査を実施する方向では検討しておりますが、刻々と状況が変わってきておりますので、それをふまえてどうしなければいけないかということは、今後変わる可能性がないわけではないですが、31日に私が発表させていただいた内容、取材で高校教育課がお答えさせていただいた内容から、全く変わっておりません。

(質) 入試自体が2月6日、7日だと思うのですが、いつぐらいに結論をだすというのがありますか。

(答 高校教育課) 各市町教育委員会あてに、「前期選抜において定員のすべてを募集する学科・コースにおいては、コロナウイルス感染により、本検査及び追検査を受検できなかった志願者に対して、3月23日に前期選抜の追々検査を実施できるよう検討しています。」ということで、本日通知を发出する予定となっています。

(答) 31日にも「検討しています。」というふうに発表させていただいたので、内容としては変わりません。変わった部分をいえば、通知をする、お知らせをするということです。

(答 高校教育課) 不安に思っておられる受検者、保護者もいらっしゃるでしょうから。実は前段がありまして、「本検査及び追検査は予定通り実施いたします。」というお知らせがあって、「万が一コロナウイルスに罹患しても、このようなことを検討しています。」ということで、通知をさせていただきました。

(質) この市町への通知は、市町から学校、保護者に対して通知されるようになっているという理解でよいですか。

(答) そうです。

(質) あと、この件以外でコロナウイルスの影響で今把握されていること、対応されていることがあれば教えてください。

(答) 先ほども担当課に聞いて回ったのですが、現在保護者が戸惑っているとか、学校が戸惑っているとか、そういった内容については、うちの方に話はきておりません。

(質) これインフルエンザの場合だと、どうなんですか。何かそういう救済措置がありますか。

(答 高校教育課) 今年度でいいますと2月6日、7日に本検査がございます。それで、元々追検査が2月12日、概ね1週間後に準備されているわけですが、この期間にインフルエンザであれば回復するという想定で、追検査が想定されています。

(質) 新型コロナだと、追々検査ということで3月ということですか。

(答 高校教育課) はい。

(質) だから、そういう生徒さんがいなければ行わないということですね。

(答 高校教育課) はい。

(質) 念のための確認なのですが、これは新型コロナウイルスに生徒自身が感染した場合を想定した対応ということで、よろしいでしょうか。

(答) 高校対応の件ですか。

(質) はい。

(答) 感染した場合といたしますか、体調不良の場合とか、感染が疑われる場合ですね。

(答 高校教育課) 通常の追検査であっても、医師の診断書の提出があって初めて追検査を受けることができます。コロナウイルスの場合も、医師の診断を伴った場合にということを前提に考えています。

(質) 新型コロナウイルスによる感染という診断書ということが条件…

(答 高校教育課) もしくは、診断とまでいなくても、疑いということがありましたら、それも当然受理しなければならないだろうと想定しています。

(質) 三重県以外に同様の対応している都道府県があるか把握していますか。

(答) 各県に31日時点で聞いた情報をもとに把握しています。

(答 高校教育課) 前期選抜がない県もありますが、近隣県に聞いたところ、お互いその時点では検討しているという状況でした。今日現在どのようになっているかはちょっと把握しておりません。

(質) 検討しているというのは色々レベルがあると思いますが、三重県の場合、具体的な日付まで決まっていると思いますが、他県も結構具体的な日付が決まっているところがありますか。

(答 高校教育課) 得た情報では、そこまではなかったです。

(答) 私自身は報告を受けた段階で、三重県が一番早い対応を考えているなど思っております。また、内部でどうしようとか、こういうことが必要だということで、こうやって31日の時点で外に発信をさせていただいたのは、多分三重県だけだと思います。

(質) 三重県が他県に先駆けたような形でやろうとしたのは、どういう理由ですか。

(答) 三重県で発生したというのは置いておいても、やっぱりこんなにも日々刻々と状況が変わると、中国においても変わるし、全世界に広がっている、日本もどうなるかわからないという中で、入試を控えている子どもたちのことを考えると一番不安だし、保護者も不安に考えられると思いますので、少しでも子供と保護者の不安を解消していくのが私たちの仕事だと思っておりますので、そこを勘案して、なるべく早い段階でということで業務を進めている状況です。

(質) 検討はいつとれるのですか。

(答) 日々刻々と状況が変化しているので、ちょっと状況が今のところ読めない。でも、おそらく3月23日というのは今から1ヵ月、2ヵ月弱と結構経った日付ですので、そこになるのではないかという感覚はあります。日々刻々というのは、本当に2週間なのか、出ていなくてもまた何かあるかもということがわからないので、ちょっとそこが読めないですけども、3月23日というのが割と今から日が空いているので、そこになるんだろうなと思っています。だから、検討がとれる日は申し訳ないのですが、今の段階では、いづろろということも含めてお答えしにくい状況にあります。補足ありましたら。

(答 高校教育課) 市町教委との連携をしっかりとしまして、万が一、今後、中学生が罹患するような可能性が生じた場合は、当然話をより進めます。制度としてはもちろん持って

おりますが、入試である以上、本当にいろんな影響がございますので、申し訳ないですが、今は検討ということで出させていただきますと。

(質) 検討は6日までにとれますか

(答 高校教育課) 生徒が発症したとかいうことがありましたら、個別に市町教育委員会などから当然相談がありますので、きちんとそこでお話をさせていただくということで考えています。

(答) 6日までには取れない?

(答 高校教育課) 今のままの状況で6日まで想定できればいいんですけども、もし万が一、例えば爆発的に感染が増えるとかということになりましたら、また別の措置を考えなければなりませんし、このまま何も出なければこの措置はしなくてもいいということでもありますので、申し訳ありませんけど現在のところこういう発表でお願いしたい。

(質) 追々試験をやるかやらないかは、まだ分からないということによいですか。

(答 高校教育課) 今現在のペースで罹患者が発生した場合はやるということで考えておりますが、先ほど申しましたように、ないとは信じていますが、急にばっと増えた場合には、別のことも考えなければいけないということを鑑みて、こういう表現をさせていただきたいと思います。

(質) まず、本番までこのままいくということですね。

(答) そうですね。ちょっと答えにはなっていませんけども、刻々と状況が変わるそういう状況の中で、いつまでにとというのはなかなか。例えば、「熱が下がって何日経ったら」とかそういう日程が組めればいいですけど、そこがわからないので。ちょっと返事をしにくい状況にあることをご理解いただきたいと思います。

○懲戒処分に至らない体罰等の公表基準について

(質) 年末に教職員の不祥事の基準を見直しましたが、その後どうですか。議会や県民からの反応といますか。

(答) あの時発表させていただいた後、県民の皆様とか議会からとか、議会にも報告をさせていただいていますが、反応はございません。

(質) そうですね。

(答) 発表させていただいたので、これに従って、着実に誠意をもって県民の皆さんの信頼回復できるようにしていきたいなというふうに考えています。

(以上) 11時48分 終了